

「外国語教育、外国語の学習、教授、評価のための共通参照枠」を読む

- 外国語教育のヨーロッパ標準から学ぼう -

あらゆる言語使用と学習の形は以下のように記述することができる。

言語の使用というとき、言語学習をも包括して考える。これは人によって遂行される行為の一部である。人は個人としてまた社会的存在として一連の能力(competences)を持っているが、それには一般的能力(general competences)と、特別なものとして、コミュニケーション言語能力(communicative language competences)の二者がある。そして、各自が利用できる能力を使いながら、さまざまなコンテキストで、さまざまな条件(conditions)下で、さまざまな制約(constraints)の下に言語活動(language activities)に携わる。その際テキスト(texts)を産出するか、あるいは受容するという言語処理(language processes)に携わることになる。そこで作られるテキストは特定の生活領域(domains)に属するテーマ(themes)と関連する。またその際課題(tasks)の成就を目指して最も有効と思える方略(strategies)を使う。こうした行為を当事者自らが観察・モニターする中で、上述の能力はそれぞれ強化されたり、修正されたりするのである。

- ・能力(competences)は、人に行動の遂行を可能にする知識、技能、性質を総合したものである。
- ・一般的能力(general competences)は、言語特有の能力ではなく、言語活動も含めた全ての種類の行為に際して働く能力である。
- ・コミュニケーション言語能力(communicative language competences)は、人に言語という特殊な手段を使って行動することを可能にする能力である。
- ・コンテキスト(context)は、出来事と、その状況要因(物理的な要因など)の集まりを指す。この両者について個人の内的、あるいは外的なコンテキストが考えられる。コミュニケーションという行為はこうした中に置かれている。
- ・言語活動(language activities)は、ある課題を達成するために、具体的な生活領域の中で、一つあるいは複数のテキストを受容または産出するためにコミュニケーション言語能力を行使することである。
- ・テキスト(texts)は、(話された、あるいは書かれた)ディスコースの一部、あるいは全体として、具体的な(生活)領域に関連する。課題の成就を試みの中で言語活動が行われることになるが、テキストは支援手段としても、目的としても、産出物としても、また処理作業としても表れる。
- ・言語処理(language processes)は、文章を話したり書いたり、それらの文章を聞いたり読んだりする際に関与する脳神経学的かつ生理学的な一連の出来事である。
- ・(生活)領域(domains)は、社会的存在として人間が行動している社会の中の活動領域を指す。この CEF では高度に抽象的なカテゴリーを採用し、言語学習・教育と言語使用にとって重要な主たるカテゴリーを限定した。教育領域(educational domain)、職業領域(occupational domain)、公的領域(public domain)、私的領域(personal domain)である。

- ・課題(tasks)は、一定のコンテキストにおいて、解決が必要な問題、果たすべき義務、達成すべき目的があると判断された場合、一定の結果を得るために、個人がその必要性を認めた目的行為と定義される。こう定義することで、タンスの移動、本の執筆、契約交渉の際に一定条件を勝ち取ること、カードゲームをすること、レストランで食事を注文すること、外国語のテキストの翻訳、グループ作業でクラス新聞を準備することなどの幅広い行為をカバーできる。
- ・方略/ストラテジー(strategies)は、計画的な、有目的の統制された一連の行動の中で、自分自身で設定した課題、もしくは直面しなければならない課題を遂行するために個人が選択するものである。

P.9 ~ 10

「外国語教育、外国語の学習、教授、評価のための共通参照枠」

朝日出版社 2004年9月25日刊

- 2006年10月13日記 -